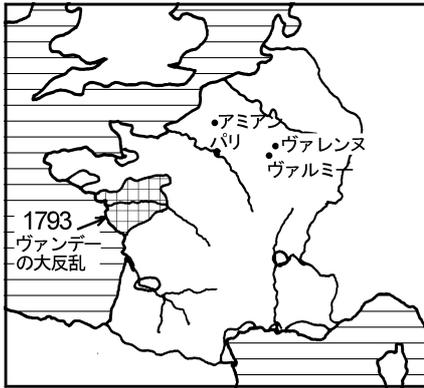


その後もずっと「祖国は危機にあり」

ヴァルミーの戦勝(1792.9)後も、フランスは内外の脅威にさらされ、深刻な危機に直面していた。



- 1) **第1回対仏大同盟** (1793~1797) を結んだヨーロッパ諸国の対仏連合軍がフランスに侵入。
 提唱者：イギリス (ピット首相) 契機：ルイ16世の処刑 (1793.1.21)
 参加国：ロシア、スペイン、プロイセン、オランダ
 オーストリア、ポルトガル、サルデーニャ
- 2) 反革命派の反乱や生活苦による民衆の騒乱が各地で発生していた。
 特に、**ヴァンデーの農民反乱** (1793.3.10~95年) は左図のように広範囲だった。ヴァンデーは貧しい農村地帯で、元来カトリックと王党派の強い土地柄だった。徴兵制(1793.2)への反発が契機となって反乱が発生。

総裁政府の成立

- 1) 1795.8.22 国民公会は、革命の終結を意図して**1795年憲法 (共和国3年憲法)** を制定。
 ブルジョワジー中心の憲法で、制限選挙が復活、二院制。

第一共和政

この憲法下で、5人の総裁による【1: _____】が成立した。
 統領政府までは第一共和政である

総裁政府

- 2) 総裁政府は対外戦争を続行する中で王党派の反乱 (バンデミエールの乱1795.10.5)、【2: _____】※の秘密結社など、左右から揺さぶられ不安定。商工業者や農民は強力な指導者を待望した！

※ Babeuf 1760-97 総裁政府成立後、秘密結社を組織、私有財産制廃止による共産主義社会の建設をとなえ、民衆による革命を準備。1796.5逮捕、翌年処刑。なお「私有財産は窃盗である」とはプルードン(1809-65、仏の無政府主義者)の言葉である。

ナポレオンの出現

《革命軍の有能な指揮官》登場、国民の期待を集める。

- 1795年10月5日 **バンデミエールの乱** (王党派の反乱) を鎮圧
- 1796年~97年 イタリア遠征軍司令官として、ロンバルディア平原でオーストリアやイタリア諸勢力を撃破、【3: _____】を結び、**第1回対仏大同盟**を崩壊させた。
- 1798年~99年 **エジプト遠征**を行う 目的：イギリスとインドの最短通商路を断ち切る。
 マムルーク軍を打ち破り、オスマン朝治下のエジプトを3週間で占領。しかし、海上では【4: _____】(ナイルの海戦)でイギリス海軍(H.ネルソン提督)に敗れ孤立。
 革命フランス軍に占領された体験は、エジプトや西アジアにおけるナショナリズムの興隆を促しムハンマド=アリー政権獲得につながった。

1798.12.24 (一般には1799年)、ナポレオンのエジプト遠征を機に、イギリスはロシア・オーストリア等と同盟 (プロイセンは中立)、【5: _____】1799-1802を結成し、国境に迫り、フランスは再び危機に瀕した。ナポレオン、エジプトに陸軍を残したまま急遽帰国。(残留フランス軍は孤立無援で戦い続け、1801年、イギリス軍に降伏した。)

第一共和制

総裁政府

- 1799年11月9日 ナポレオンはいわゆる「【6: _____】(霧月) 日の【7: _____】」で総裁政府を打倒し、【7: _____】を樹立。第一統領 (統領は3人) として実権を掌握した。形式は共和政だが、実質は軍事独裁。

☆これをもって、フランス革命の終結と考える！ (通説)
 「革命は終わった」(ナポレオン本人の日記より)

1799年~1815年をナポレオン時代とも言う。
 支持基盤は産業ブルジョワジーと革命で土地を得た小農民層。

統領政府

ナポレオンの帝政とヨーロッパ支配

1792年に始まった革命戦争は、ナポレオンに引き継がれた。近隣諸国にも、旧来の身分秩序を打破する新しい動きをつくり出した。ナポレオンが遠征した諸国には、ナショナリズムのタネが蒔かれた！

- 1800年 2月 フランス銀行の設立……ナポレオンは資本主義経済の発展に何が必要かよく知っていた。
- 5月 第2次イタリア遠征 オーストリア軍を撃破してリュネビルの和約(1801)結ぶ。
- 6月 【8: _____】: イタリア北部の町マレンゴにおいて、ナポレオン率いるフランス軍が、ミヒャエル=フォン=メラス率いるオーストリア軍に勝利を収めた。
 このことはアミアンの和約(1802)で**第2回対仏大同盟**を崩壊させることにつながった。

